

個人研究 教科教育

教科の見方・考え方を働かせる授業の工夫 ー地域教材の活用等を通してー

平群町立平群北小学校 教諭 中 澤 哲 也

指導主事 村 上 賢 一

教科の見方・考え方を働かせる授業の工夫

―地域教材の活用等を通して―

平群町立平群北小学校 教諭 中 澤 哲 也

Nakazawa Tetsuya

指導主事 村 上 賢 一

Murakami Kenichi

要 旨

児童が社会科の学習を通して「社会的な見方・考え方」を働かせ、深い学びを実現するために、「地域教材を活用した授業づくり」「児童相互に事実に基づいた話し合いを行う『ねり合い』」「児童の振り返りの共有」といった授業実践と並行して、アンケートによる児童の意識調査を行い、取組の効果について調査した。その結果、地域に実在した松永久秀という武将を教材として取り扱うことで、児童が教材を身近に感じ、興味・関心を高めるとともに、主体的に様々な視点から見方・考え方を働かせて各自の考えをねり合うことにより、歴史的な事象の特色や相互の関連・意味を多角的に考えるなど、学習の質的な深まりが得られることが分かった。

キーワード： 見方・考え方、地域教材、ねり合い、松永久秀

1 はじめに

平成29年3月に告示された新学習指導要領では、各教科・領域の目標が、資質・能力の育成という観点からより構造化された形で示された。社会科では、教科目標を「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す」とされ、小学校学習指導要領解説社会編には、「社会的な見方・考え方」について「社会的な見方・考え方を、位置や空間的な広がり、時期や

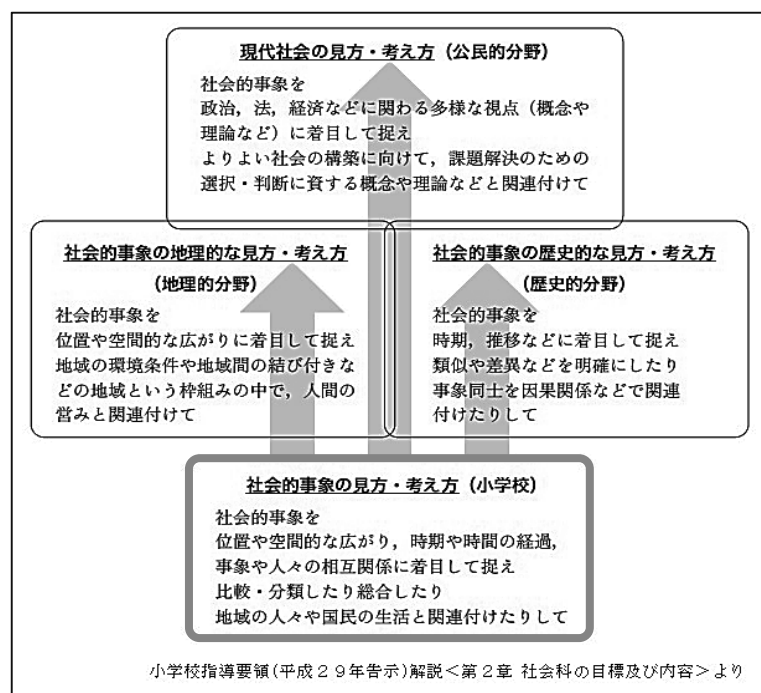


図1 社会的な見方・考え方

時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々

や国民の生活と関連付けたりすること」と示されている(図1)。また、中央教育審議会答申(平成28年12月)では、『見方・考え方』を働かせる学びの過程を通じて資質・能力は伸ばされ、資質・能力が育まれることによって、『見方・考え方』は更に豊かなものになる」としていることから、「見方・考え方」と資質・能力の育成の相互補完的な関係(図2)を意識した授業づくりが求められている。

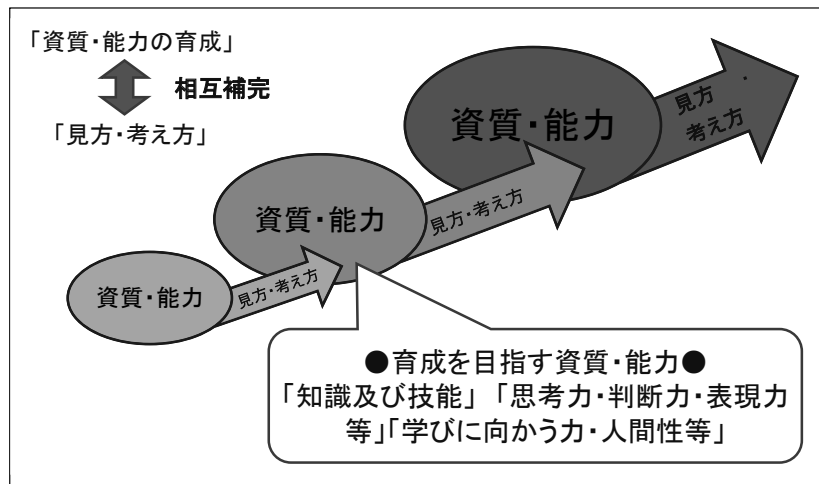


図2 「見方・考え方」と資質・能力の育成の関係のイメージ

また、「物事を理解するために考えたり、具体的な課題について探究したりするに当たって、思考や探究に必要な道具や手段として資質・能力の三つの柱が活用・発揮され、その過程で鍛えられていくのが「見方・考え方」であるといえよう」と山田(2018)は述べており、あくまでも学習の目標は「資質・能力」の育成であり、「見方・考え方」は『資質・能力』を具体的に生かすためのツールのようなものである」とも述べている。

これらのことから、今回の実践においては、学習における成果物や児童の行動によって、個々の児童が「見方・考え方」を働かせている様子を可視化して見取るのと同時に、取組前後の変容について分析することにより、間接的に「見方・考え方」が鍛えられたかどうかを見取りたいと考えた。

表1 小学校第6学年社会科において育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
我が国の政治の考え方と仕組みや働き、 <u>国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産</u> 、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、 <u>地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能</u> を身に付けるようにする。	<u>社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力</u> 、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を 選択・判断する力、 <u>考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力</u> を養う。 ※下線部分が本実践における歴史学習の単元に関連すると考えられる部分	<u>社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度</u> や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、 <u>多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情</u> 、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。

新学習指導要領では、第6学年の目標として上記表1のように、具体的に育成を目指す資質・能力を示している。これらの内容から本実践に関連する部分(下線部)に注目し、児童のワークシートやノートの記述、取組前後に実施するアンケート等を分析した。

2 研究目的

本研究は、「見方・考え方」を働かせる授業の工夫について「①授業準備」「②授業中」「③授業後」の場面において、有効と考える工夫を加える計画を立て、それらの工夫を用いて授業を行い、その効果を検証することを目的として取り組んだ（図3）。

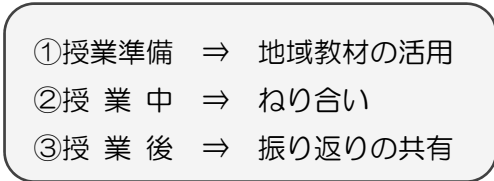


図3 三つの工夫

3 研究方法

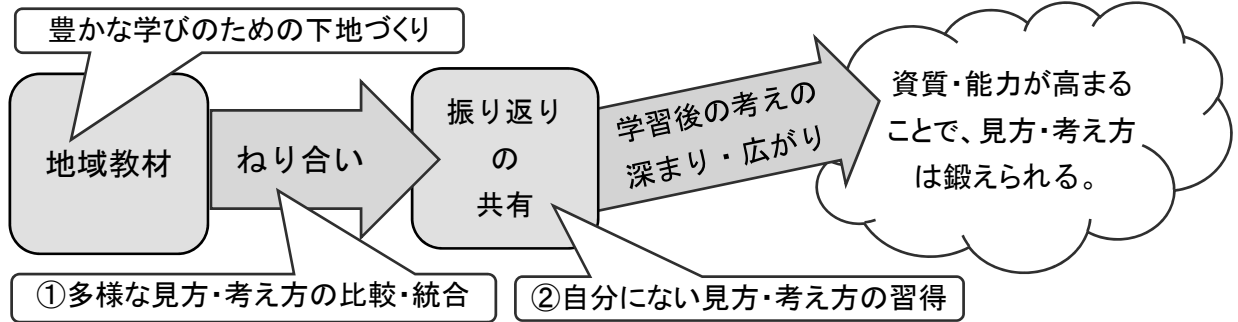


図4 見方・考え方が働くと考えられる場面①②

本実践においては、教員自らが積極的に教材開発を行い、児童が主体的に取り組みたくなるような地域教材を提示することで、豊かな学びのための下地を作ることができると考えた。さらに、それらの教材を用いた学習を行い、織田信長と松永久秀を比較しながら、事実を基に意見の交流を活発に行うことで「①多様な見方・考え方の比較・統合」が行われるのではないかと、また、毎時間の最後には個々の振り返りを教員が回収し、次時には作成した振り返りの一覧表を提示することで、「②自分にはない見方・考え方の習得」が行われるのではないかと仮説を立てた（図4）。

このように学びの各場面において、児童の制作した図や文章等から資質・能力の高まりを見取することで、見方・考え方をどのように働かせたのかを分析したいと考える。

(1) 地域教材の活用について

高知県教育委員会の研究報告によると、地域教材の開発の効果は次の4点であると谷田(2010)は述べている。中でも②と④は、前述の「社会的事象の見方・考え方」にある「人々の相互関係に着目して捉えること」や「地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」に深く関連しているものと言える。

- ① 地域の素材は子どもたちにとって身近であり、親近感をもちやすい。
- ② 自分との関わりを意識しながら、主体的に取り組むことができやすい。
- ③ 自分の育った地域に対する誇りや愛情を育むようになる。
- ④ 出会いがある。地域との豊かな出会いを、子どもたちに仕組むことができる。

この他に、地域の過去と現在の変化を比較したり（時間的な見方）、歴史上の人物たちがなぜそこに居を構えたのかを想像したり（空間的な見方）するなど、多面的に考えることもできるだろう。このように、地域教材を扱うことによって歴史を身近に感じ、より学習に関心をもつことができると考えた。本実践では、平群町にいた戦国武将の松永久秀を扱い、児童が意欲的に学習に

取り組むことができる地域教材の開発を試みた。

(2) ねり合いについて

奈良県小学校教科等研究会社会科部会では、ねり合いについて次のように述べている。

ねり合いとは、「児童相互に事実に依拠した話し合いを行う中で、見方・考え方を働かせ、中心概念にせまる学習」と言える。児童が質問し合い、考えを伝え合う中で、相互の共通点や差異に着目し、見方・考え方を働かせながら社会的事象の特色や意味に迫るのである。

単元計画の中にねり合いを位置付けることのよさは次の三点であると考えられる。

- ① 他者との交流を通して、多様な意見や事実を知ることができる。
- ② 他者の考えを知り、自分の考えをもう一度問い直すことができる。
- ③ 他者に伝えることで、より自分の理解が深まる。

このように、ねり合いを行うことは、小学校学習指導要領解説社会編の「社会的事象の見方・考え方」にある、「比較・分類したり、総合したり」する場面を授業で作り出すきっかけとなると考えられる。

(3) 振り返りの共有について

本学級では、従来から重点的に取り組みたい単元の指導の際には、授業の終わりに学習内容に関する振り返りを児童が行い、次時の授業の始めに学級全体で共有している（図5）。

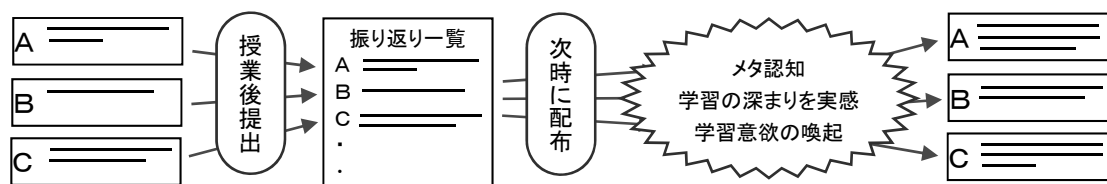


図5 各児童の振り返りをクラス全員で共有する工夫

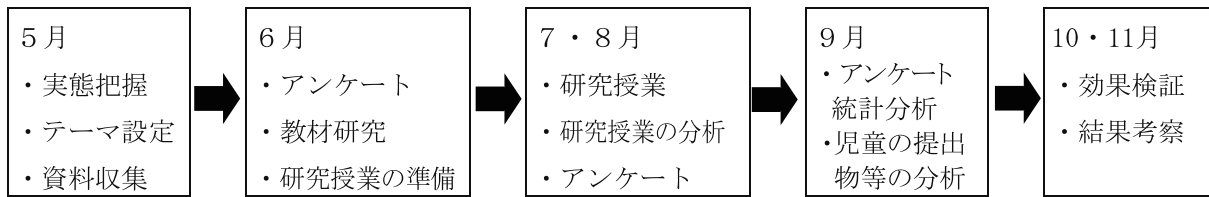
授業後にノートに振り返りを書くことのよさは次の三点であると考えられる。

- ① 自分の思考や理解の状況を俯瞰的に捉えるメタ認知につながる。
- ② 本時の自分の学習の深まりを実感することができる。
- ③ 本時を振り返ることで、次時への学習の意欲の喚起につながる。

本実践では毎時間、社会の授業の最後には児童に振り返りを書かせるようにした。その中で、見方・考え方を働かせた記述があれば、下線を引いたりコメントを残したりするようにした。

4 研究内容

(1) 研究計画



(2) 松永久秀の教材化について

本研究においては、第6学年の社会科において地域教材の活用が児童の見方・考え方を働かせるの一助になると考え、戦国時代の教材として、平群町にいた戦国武将の松永久秀（以下、「久秀」と言う。）を取り上げた（表2）。

久秀を教材化した理由は、室町時代後期から戦国時代にかけて、現在の平群町に城を置き本拠地としていただけではない。長らく悪人の代表格として扱われてきた久秀が、近年の歴史研究により、実際は情にあふれた、筋を通す人物であったという新たな学説が発表されたからである。これらの相反する説は、児童が自分の目を見て、自分の頭で考える絶好の機会であると考えた。

そこで、久秀に関する新たな学説を発表した天理大学の天野准教授を訪ね、下記のような久秀に関する情報を得た。そして、児童には旧来からの説も提示し、久秀の人物像に迫る授業を行うことにした。

武将としての久秀には、今でも語り継がれる悪い逸話が数々あり、その中でも、主家三好氏を排除し、更に13代将軍足利義輝を暗殺するという、当時の下剋上の風潮を代表するものがある。また、三好三人衆との戦いで、東大寺大仏殿を焼き落としてしまったという伝説も残っている。一方で、これらの伝説の多くは江戸時代に作られた創作や誇張だとする研究（天野ら 2017）もある。その根拠として、将軍暗殺の時期には久秀はすでに家督を息子に譲っていたことや、東大寺の戦いの際に日本に滞在していた宣教師が、「大仏殿に火を放ったのは久秀の敵軍のキリスト教徒だった」という記録を残していること等を挙げている。

文化人としての久秀の豊かな才能を示す逸話には、当時有数の茶人と交流をもち、名器と呼ばれた茶器を収集するなど、自身も優れた茶人であったばかりでなく、築城の技術は名高く、1565年にキリシタン宣教師のルイス・デ・アルメイダは多聞山城を訪れたときに、「世界中探してもこんな美しいものがあるとは信じられない」と残している。久秀の築城技術を真似た戦国大名も数多く、松永久秀の業績を具体的に調べていくことで、当時、多くの戦国大名がいかに天下統一を目指して競い合っていたかが見えてくると考えられる。

(3) 社会科の学習に関するアンケートの実施

1学期の取組の前後にアンケートを実施した。質問項目については、平成30年度全国学力・学習状況調査で実施された理科の質問紙調査の項目を参考に作成した（表3）。回答は「4：よくあてはまる」、「3：どちらかといえばあてはまる」、「2：どちらかといえばあてはまらない」、「1：あてはまらない」の4件法とした。

表2 「松永久秀」略歴

1508	摂津国で生まれる。
1540	三好長慶に仕えるようになる。
1559	筒井順慶を破り、大和一国を支配し、信貴山城の主になる。
1562	南都の拠点として、多聞山城を築城する。
1565	息子の久通らが将軍足利義輝を討取る。
1567	東大寺大仏殿の戦いで、大仏殿が焼失する。 織田信長と同盟する。
1568	織田信長と共に上洛する。
1577	信長に反旗を翻し、信貴山城に籠城。信長軍に攻め込まれ自決する。

アンケート結果の分析方法は、各質問項目ごとに平均値の差について「対応のある t 検定」を用いて、取組前後の意識の変化が有意な差であるのか、どの程度の変化であるのかを統計的に分析する。前後の比較を行うことで、資質・能力の高まりについても検証する。

表3 取組前後のアンケート項目

No.	質問内容
①	社会科の勉強は好きですか。
②	社会科の勉強は大切だと思いますか。
③	社会科の授業の内容はよくわかりますか。
④	社会科の授業で学習したことは、将来、役に立つと思いますか。
⑤	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。
⑥	毎時間授業のめあてを意識しながら取り組んでいますか。
⑦	教科書や資料集で調べることは得意ですか。
⑧	教科書や資料集で調べた事をまとめることは得意ですか。
⑨	調べた事を学級で発表するのは得意ですか。
⑩	歴史に関する本(マンガも含む)を読みますか。
⑪	社会科の授業では、本や資料集を使って調べる活動をよく行いますか。
⑫	自分の住んでいる町の歴史に興味がありますか。
⑬	身近な地域の歴史と日本の歴史は関係があると思いますか。
⑭	社会科の授業では、自分の考えを発表することがありますか。
⑮	社会科の授業中、友だちの話を聞き、なるほどと思うことがありますか。
⑯	社会科の授業では、友だちと話し合う活動をよく行っていますか。
⑰	社会科の内容で知りたいことがあると、先生に聞きますか。
⑱	社会科の内容で知りたいことがあると、友だちに聞くことができますか。
⑲	調べたい事について、進んで調べることができましたか。
⑳	社会科の授業中、友だちと調べた事について話し合うのは楽しいですか。
㉑	授業では友だちの意見を聞くことでより深く考えることができますか。
㉒	二つ以上資料を比べながら、ちがいについて考えることができますか。
㉓	自分の住んでいる町の歴史について、もっと知りたいと思いますか。
㉔	社会科の授業中に「なぜだろう?」と疑問に思うことがよくありますか。

(4) 1学期の授業実践「戦国の世から天下統一へ —松永久秀と織田信長—」

【1学期に取り組んだ戦国時代の単元計画】

ア 単元の目標

- 群雄割拠と言われた戦国の世の中で、当時の戦国武将を代表とする久秀の業績や、天下統一を目指した信長の政策を調べ、それらを比較しながら、戦国時代の様子や天下統一の様子を理解する。
(社会的事象についての知識・理解)
- 戦国の世の中で天下統一するために、必要な軍勢力や財力を信長や秀吉はどのようにして手に入れたかを考え、それぞれの武将の立場に立ち自分の意見を表現する。
(社会的事象についての思考・判断・表現)
- 自分たちの暮らす平群町内に城を構えていた久秀や、戦国武将たちについて関心をもって調べ、久秀と信長との関わりに意欲的に学習に取り組むことができる。
(社会的事象・学習への主体的な態度)
- 地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取り、白地図や年表、作品などにまとめることができる。
(観察・資料活用の技能)

イ 評価規準

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断・表現	ウ 観察・資料活用の 技能	エ 社会的事象につい ての知識・理解
<p>① 久秀の生き方について関心をもって調べ、進んで戦国の世の中について考えようとしている。</p> <p>② 戦国の世が天下統一されていく様子に関心をもち、意欲的に調べている。</p>	<p>① 久秀の業績を調べていく中で、戦国時代を生き抜くことの難しさを考えることを通して戦国時代の様子を捉えている。</p> <p>② 三人の武将の業績や政策を比較、総合しながら天下統一に必要なことを考え適切に表現している。</p>	<p>① 地図や年表、その他の資料を活用して、歴史上の主な事象に関わる人物の働きや文化遺産について必要な情報を集め、読み取っている。</p> <p>② 調べたことをワークシートやノートにまとめている。</p>	<p>① 久秀の業績を調べ、まとめることを通して、戦国時代の風潮を理解している。</p> <p>② 三人の武将の業績や政策について調べ、まとめることを通して、天下統一へ至る様子について理解している。</p>

ウ 展開の概要（全7時間）

	学習活動	指導上の留意点	評価
み つ め る ①	<p>○久秀の業績や、生きた時代に興味をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>久秀が生きた戦国時代とはどのような時代だったのだろうか。</p> </div>	<p>・平群町にいた戦国武将として紹介する。</p>	ア①
し ら べ る ② ③ ④	<p>○久秀の業績や、人物相互の関わりについて調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>毒殺、暗殺、裏切り、東大寺を焼くなど、ひどいことを平気でする人。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>久秀はとても強くてたくましい人だ。 平群にこんな人がいたなんて、びっくりした。</p> </div> <p>○信長の業績や政策について調べる。</p>	<p>・自作の教材を活用し、調べさせることで児童が久秀の印象を自分自身でもつようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>久秀は生き残るためだったら、どんなことでもしそうと思った。 私だったら、こんな無茶苦茶なことにはできない。</p> </div>	エ①
し ら べ る ② ③ ④	<p>○信長の業績や政策について調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>（戦国時代は）キリスト教など外国の文化を取り入れていた反面、人を殺すなど今の時代ではありえない事をたくさんしていた恐ろしい時代。でも、天下統一を目指す粘り強い姿は尊敬する。</p> </div>	<p>・二人の業績や政策について調べることを通して、戦国時代のイメージをつかませる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>（戦国時代は）久秀のように裏切ったり、信長のよう に力を付けたりして、やり方は違っても天下統一を目指していた時代だ。</p> </div>	イ① ウ①

ふかめる ⑤ ⑥	<p>○久秀と信長の生き方を比較し、相互の関係について考える。</p> <p>【児童のワークシート】</p> <p>(久秀は信長のことを)ライバル視でも自分の方が上だ!と思っていた。</p>	<p>・文化や政策、戦い方など、カテゴリーに整理していくことで、信長が久秀を一目置いていた存在であることに気付かせる。</p>	ウ② イ②
	<p>(信長は久秀のことを)尊敬している。なぜなら安土城を造る時、多聞城をモデルにしたから。</p> <p>なぜ、信長は天下を統一することができたのだろうか。</p> <p>○信長の政策や戦い方を多面的に見て、自分の考えをもち話し合う。</p> <p>ねり合い前</p> <p>新しい戦い方や新しい政策や新しい文化を取り入れたから。</p> <p>ねり合い後</p> <p>信長はデメリットをメリットに変えたから天下を統一することができた。なぜなら、「鉄砲は重いから不便」ではなく、<u>三列でスムーズに攻撃</u>していたり、鉄砲はお金がかかるのに、<u>楽市楽座</u>や<u>南蛮貿易</u>などでお金をたくさん集めたりし、<u>たくさんの鉄砲</u>で戦いに勝った。</p>	イ②	
ひろげる ⑦	<p>○信長の死後、天下統一を成し遂げた豊臣秀吉や江戸幕府を開いた徳川家康の業績や政策を調べる。</p>	<p>○二人の業績や政策を調べていくことを通して、戦国時代が大きな力によって終わりを迎えていったことに気付かせる。</p>	ア② エ②

5 実施したアンケート結果

取組前後に24項目からなるアンケートを実施した。各質問項目に対して4件法で回答させ、各項目ごとに平均値を算出した。28人全てのデータが集まったので、対応のある平均値のt検定を行い、取組前後で差がないという帰無仮説に対して、両側検定でp値が5%未満のもの(*)を有意差有りとした。p値が1%未満のものを「**」、p値が5%以上10%未満のものを「+」として、表4に記す(全項目の結果については資料1参照)。

表4 取組前後のアンケート結果の比較 (有意確率順)

No.	質問項目	取組前	標準偏差	平均値の差	取組後	標準偏差	t値
18	社会科の内容で知りたいことがあると、友だちに聞くことができますか。	2.69	1.07	0.45	3.14	1.06	3.33 **
20	社会科の授業中、友だちと調べた事について話し合うのはおもしろいですか。	2.58	1.17	0.67	3.25	0.88	3.29 **
16	社会科の授業では、友だちと話し合う活動をよく行っていますか。	3.00	1.10	0.32	3.32	0.71	3.07 **
5	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。	2.77	1.16	0.23	3.00	1.10	2.50 *
1	社会科の勉強は好きですか。	2.58	1.10	0.28	2.86	1.22	2.30 *
21	授業では友だちの意見を聞くことでより深く考えることができますか。	2.38	1.10	0.44	2.82	1.06	1.99 †
12	自分の住んでいる町の歴史に興味がありますか。	2.42	1.27	0.18	2.61	1.32	1.77 †

有意差有り

† p<.10 * p<.05 ** p<.01

その結果、「友だちと調べたことについて話し合うのは楽しい」や「社会の勉強は好き」といった、学びに向かう力に関する項目において有意な向上が見られた。また、地域教材との関連は更に分析が必要ではあるが、「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」においても有意な向上が見られたが、「自分の住んでいる町の歴史に興味がある」といった質問項目については有意な差とまでは言えないものの、やや向上しているのではないかと推測される。同じく、向上しているのではないかと推測されるものの一つに、「友だちの意見を聞くことでより深く考えることができる」という項目があり、ねり合いがもたらした効果である可能性がある。

6 成果と課題

(1) 地域教材の活用について

地域の祭りの「時代行列」(図6)において、毎回登場する武将を取り上げたことや、普段目にする山の頂に実在した山城を教材として取り上げることで、自分とは遠い存在であるはずの戦国武将や戦国時代というものを身近に感じながら学習する様子が見られた。これらは豊かな学びのための下地づくりに役立ったと考える。

地域の戦国武将として児童に紹介した久秀であったが、最初は久秀が行ったと一般的に伝えられていることについて知ると、非常に悪い印象をもつ児童が多かった。「みつめる」段階の振り返りの中には、「私だったら主君へ反逆なんてできない」「私だったら久秀に近づきたくない」など、時の有力者に忠誠と反逆を繰り返す久秀に対して否定的な内容が多かった。一方で天理大学の天野准教授の「久秀は本当に悪人なのか？」という説を紹介することで、久秀の略歴や人物相関図から、「どうしてそんな人を殺したりするのか、その理由を知りたい」「なぜ悪いことをしたのか」ということに関して、当時の時代背景等も考慮しながら、様々な見方・考え方を働かせ、学習に取り組むことができた。

「ふかめる」段階で久秀と信長の業績を比較したときは、三大悪を行った武将として有名な久秀よりも、信長の方がはるかに信じられないことをしていると考える児童が増えてきた。また、



図6 「へぐり時代祭り」の「時代行列」
(平群町観光産業課提供)

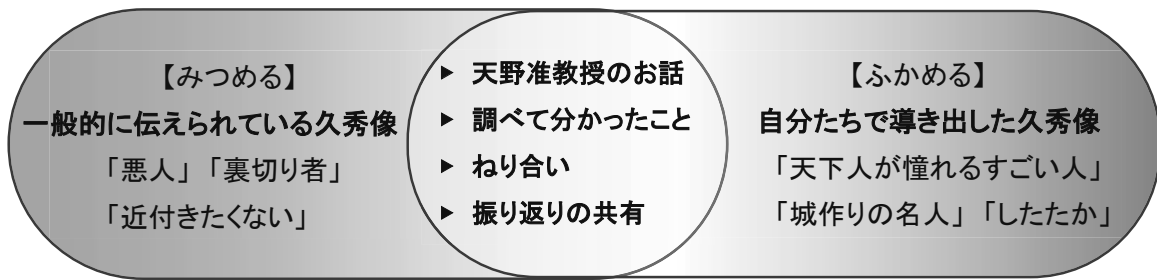


図7 児童の見方・考え方の変容

二人を比較し、お互いの考えをねり合うことで、それぞれの所行は戦国時代を生き抜くために行われたものであり、それだけ当時自分の領地を守ることは、大変な時代であったという歴史認識に至ることができた(図7)。比較後に「久秀と信長がお互いをどう思っていたか」を考えたときに、ほとんどの児童が、久秀のしたたかな生き方や築城技術を理由に、「信長は久秀に対して憧れをもっていた」「信長は久秀を恐れていた」「信長は久秀のことをすごいと思っていた」という「みつめる」段階とは違う見方・考え方が振り返りの文章に見られた。

また、久秀や信長といった人物を比較しながら学習したことで歴史に興味・関心が高まり、その後の秀吉や徳川家康といった人物の政策や戦い方についても、主体的に学習することができた。人物の性格や行いについて、積極的に児童が予想したり発言したりする様子が多く見られるようになった。特に「ひろげる」段階の学習で、「秀吉はどのようにして、天下を統一したのだろうか」という問いに対して「信長の戦法を近くで見てきたので、信長の武器と戦法を使い天下統一した」といった「戦い方」に視点を置いたり、「信長の財産を受け取り、すごい勢いで天下統一までいった」という「経済」に視点を置いたりしながら考えを深める児童もいた。また、「外国で強い武器を取り寄せていた」といった「外交」に視点を置いて考えを深めた児童もいた。このように、政策や業績に対してより多面的な見方・考え方を働かせ、自分なりに考えを深めながら学習に取り組む姿が見られたことは、多様な見方・考え方の比較・統合ができたからではないかと考える。しかし、地域教材の開発に関しては、その難しさが大きな課題である。今回は、天野准教授や平群町教育委員会及び観光振興課から「松永久秀」に関する多くの資料をいただき、2学期も信貴山縁起絵巻(図8)の資料や、道の駅での学習発表の場をいただいた(資料4参照)。こうした人材の発掘、データベースの構築、作成した地域教材の普及など、教育委員会や諸機関と連携・協力することが重要である。

(2) ねり合い

本単元の終盤、ふかめる場面⑥において、ねり合いの問いを「なぜ、織田信長は天下を統一することができたのだろうか」と設定した。授業の始めに、これまでの学習を通して各児童が得た具体的事実を基に、設定した問いについて個人で考えさせた。

児童が書いた文章を、全てPCに入力し、テキストマイニングの手法で分析し、出現頻度の多い文字は大きい円を用い、セットでよ



図8 信貴山縁起絵巻

く現れる単語ほど太い線で結んで表した(資料2参照)。

ほとんどの児童は「鉄砲をたくさん使ったから」「新しい戦い方を取り入れたから」といったように、信長は優れた武将であるという見方・考え方で予想を立てていた(図9上)。

その後、「信長はどのようにして鉄砲をたくさん手に入れたのだろうか。」という問いを新たに設定し、資料等を用いて信長の行ったことについて調べさせた。さらに、前時(ふかめる⑤)に各児童がまとめたカテゴリーに分けた表を基に、全体やグループでのねり合いを通して「鉄砲を大量に生産していた堺(大阪府)や国友(滋賀県)を抑えていた」「商業都市を支配し、税金を納めさせていた」「南蛮貿易で珍しい品物を手に入れていた」という具体的事実に気付くことができた。また、ねり合い後の振り返りでは、「信長はあらゆる方法で金を集め鉄砲を買った。鉄砲の不便なところを補うなどして上手に使ったから、天下統一できた」「信長は上手に外国人や人々の心をつかんで信頼されながら税金を払わせた。色々な方法でお金を集めていたからとてもすごい」などといった新たな見方・考え方の記述が見られた。これらのことから、児童はねり合いを通して、信長は優秀な政治家でもあったという新たな見方・考え方を働かせて自分の信長像を見つめ直し、考えを出し合うことで、更に歴史的事象について深く考えることができたと考えられる(図9下)。

(3) 振り返りの共有

本単元での思考・判断・表現に関する評価は、児童が学びの中で出会った課題や、ねり合いの問いに対して形成した考えが、学習を通してどのように変容したかを、各自が記述した文章から読み取った。特に重視したのはノートやワークシートに書いた自分の考えや振り返りなどである。各自が発表を行う前には、じっくり考える時間を確保し、予想を立てさせたことで自分の立場が明確になり、より学習に主体

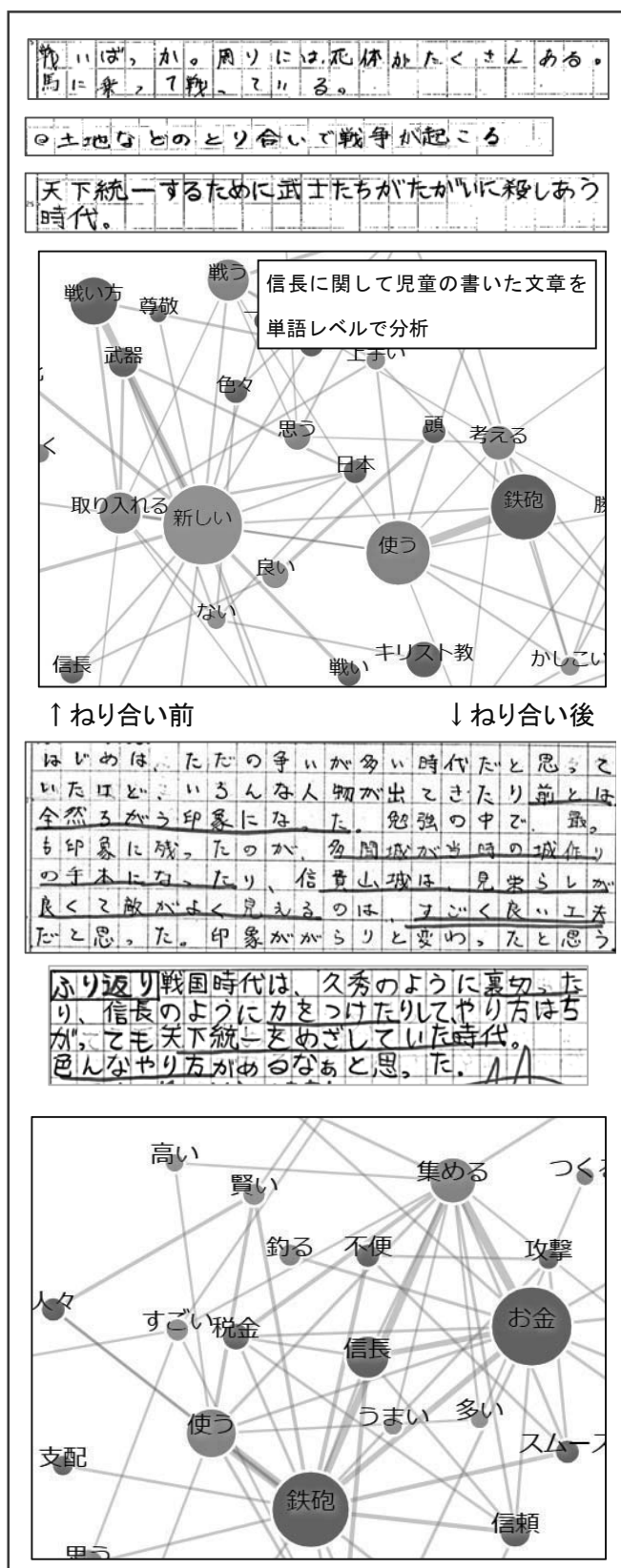


図9 共起キーワード

的に取り組む児童が増えた。「久秀の生きた戦国時代はどのような時代だったのだろうか」という学習問題に対し、久秀や信長の学習を通して、ある児童は、「戦国時代のイメージは初め、ただの争いが多い時代だと思っていたけど、いろんな人物が出てきて、前とは全然違う印象になった。勉強の中で最も印象に残ったのが、多聞城が当時の城づくりの手本になったり、信貴山城は見晴らしがよくて敵がよく見えたりするのは、すごい工夫だと思った。印象ががらりと変わったと思う」と振り返っている。久秀の信貴山城（図10）をはじめとした「城作りの名人」という業績にも視点を置き、戦国時代を新たな見方・考え方で捉えることができたからであろう。学習前は戦国時代の印象はただ殺し合う恐ろしい時代という認識が多かったが、調べ学習と振り返りの共有を丁寧に行ってきたことで、自分にない見方・考え方を習得し、新たな見方・考え方を働かせながら久秀と信長の生き方に迫り、「戦国時代」に対する認識を更に深めることができたと考える。

また、全児童の振り返りの内容をPCに入力して「振り返りの一覧表」を作成し、次時に配布したことで（資料3参照）、「Aさんの振り返りは、前の授業が整理されていて分かりやすい」「Bさんの意見は自分とはちょっと違う」といった、自分にない見方・考え方に気付き、新たに自分のものとして内化する様子が見られた。この取組を毎時間行うことで、児童の思考力や表現力は高まり、振り返りの質をお互いに高めることができたと考えられる。ねり合いのテーマに対しての振り返りでは、先述したように「軍事力」のみに重点を置いて信長の強さについて述べていた児童の多くが、ねり合いを通して「経済力」の面からも信長の強さについて述べるようになった。しかし、最後まで「軍事力」の内容のみを記述している児童も見られ、振り返りの共有の時間を利用して自分の考えがどのように変わったかを交流する時間を設けることで、より多面的に信長の人物像を捉えることができるようにすることが必要であると考えられる。

7 おわりに

地域の武将である「松永久秀」に焦点を当て、児童と一緒に授業を通して久秀という人物を追いかける中で、久秀を教材化することの二つの有用性に気付くことができた。一つ目は多面的、多角的な見方・考え方を働かせることについてである。

本実践を通して、児童だけでなく授業者自身も久秀に対する見方・考え方が多様になっていった。一説では久秀という人物は主君や将軍を追放するといったような三大悪を行ったというが、天野（2017）によると、伴侶の死のことを誰よりも悲しんだという非常に人情味のある人物であることも見えてきた。また、単元展開の中で織田信長と久秀の業績や政策を比較する活動を通して、児童が「信長は久秀に憧れていたのではないか」という視点をもったことは、授業者にとって新たな気付きであった。このように、久秀は多様な見方ができる人物であり、各々が彼の人物



図10 信貴山城縄張り図
(平群町教育委員会提供)

像を創り上げ、そのことを通して、戦国時代を捉えることができたのではないかと考える。

二つ目は協力機関とのつながりについてである。久秀を教材化するに当たっての苦労は、資料の少なさであった。また、その資料をどのように児童に提示するかも熟慮する必要があった。授業者の一方的な見方で示すのではなく、児童が多様な見方で久秀を捉えることができるように、多数の協力機関の力を借りて教材化を行った(図11)。その過程で、授業者自身が、より専門的な知識や情報を得、幅広く教材を解釈し、児童に示すことができた。大学教授や町教育委員会、役場など、多くの人々や関係機関とつながることができたことも地域資源を教材化するよさの一つであると考え。この場を借りて、久秀に関して資料を提供していただくとともに有益な御助言をいただいた天理大学文学部歴史文化学科准教授天野忠幸氏、平群町教育委員会、平群町観光産業課に感謝の意を表す。



図11 天理大学天野研究室

本校が位置する平群町には久秀のように、魅力のある教材の素(素材)が多数存在する。国内の出荷数で春、夏日本一を誇る「平群の小菊」、聖徳太子が開いたとい^{いわ}う謂れのある「信貴山」、城跡は「信貴山城」だけでなく、島左近が築城した「椿井城」などがある。しかし、こういった素材を授業者一人で教材として開発を進めるには限界がある。多数の協力機関とつながり、より多角的、多面的に教材開発をしていくことが必要であり、実際に2学期の総合的な学習の時間には、日本四大絵巻の中の一つである信貴山城縁起絵巻を取り上げ、平群町教育委員会の学芸員や町役場の観光産業課といった協力機関と授業づくりを進め、実践を行った(資料4参照)。

今後とも今回培った地域教材開発のスキルを更に高めながら、新たな地域の教材や地域の人材といった教育資源の活用を通して、より児童の見方・考え方を働かせることのできる授業づくりに取り組んでいきたいと考えている。

今後とも今回培った地域教材開発のスキルを更に高めながら、新たな地域の教材や地域の人材といった教育資源の活用を通して、より児童の見方・考え方を働かせることのできる授業づくりに取り組んでいきたいと考えている。

参考文献

- (1) 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』 pp.148-149
- (2) 澤井陽介、加藤寿朗編(2017)『見方・考え方[社会科編]ー「見方・考え方」を働かせる真の授業の姿とは?』東洋出版 pp.14-18
- (3) 山田均(2018)「社会科教育における見方・考え方とはー見方・考え方を育てる社会科から見方・考え方を働かせる社会科へー」『奈良学園大学紀要 8巻』 p.114
- (4) 高知県教育センター『平成21年度 研究報告書』「社会科好きの子どもを育てる授業モデルの研究～学習意欲を高めるための効果的な地域教材の開発を通して～」
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/h21-kenkyuu-houkokusyo.html>
- (5) 奈良県立教育研究所『平成20年度 研究紀要』「地域教材を活用した歴史学習の在り方」
<http://www.nps.ed.jp/nara-c/gakushi/kiyou/h20/kiyou20.html>
- (6) 天野忠幸編(2017)『松永久秀』宮帯出版社 pp.8-25

取組前後のアンケート結果の比較(有意確率順)

【資料1】

No.	質問項目	取組前	標準偏差	平均値の差	取組後	標準偏差	t 値
18	社会科学の内容で知りたいことがあると、友だちに聞くことができますか。	2.69	1.07	-0.45	3.14	1.06	3.33 **
20	社会科学の授業中、友だちと調べた事について話し合うのはおもしろいですか。	2.58	1.17	-0.67	3.25	0.88	3.29 **
16	社会科学の授業では、友だちと話し合う活動をよく行っていますか。	3.00	1.10	-0.32	3.32	0.71	3.07 **
5	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。	2.77	1.16	-0.23	3.00	1.10	2.50 *
1	社会科学の勉強は好きですか。	2.58	1.10	-0.28	2.86	1.22	2.30 *
21	授業では友だちの意見を聞くことでより深く考えることができますか。	2.38	1.10	-0.44	2.82	1.06	1.99 †
12	自分の住んでいる町の歴史に興味がありますか。	2.42	1.27	-0.18	2.61	1.32	1.77 †
8	教科書や資料集で調べた事をまとめることは得意ですか。	2.69	1.20	-0.31	3.00	1.16	1.29
19	調べたい事について、進んで調べることができましたか。	2.69	1.01	-0.20	2.89	1.06	1.22
2	社会科学の勉強は大切だと思いますか。	2.92	1.14	-0.08	3.00	1.22	1.19
17	社会科学の内容で知りたいことがあると、先生に聞きますか。	2.12	0.99	-0.35	2.46	1.17	1.03
13	身近な地域の歴史と日本の歴史は関係があると思いますか。	2.85	1.20	-0.19	3.04	1.11	1.00
23	自分の住んでいる町の歴史について、もっと知りたいと思いますか。	2.42	1.24	-0.11	2.54	1.27	0.85
11	社会科学の授業では、本や資料集を使って調べる活動をよく行いますか。	3.38	0.95	0.04	3.43	0.95	0.77
7	教科書や資料集で調べるとは得意ですか。	2.96	1.08	-0.11	3.07	1.11	0.68
15	社会科学の授業中、友だちの話を聞き、なるほどと思うことがありますか。	3.12	1.10	-0.01	3.11	1.10	0.40
6	毎時間授業のめあてを意識しながら取り組んでいきますか。	2.81	1.06	-0.02	2.79	1.03	0.25
10	歴史に関する本(マンガも含む)を読みますか。	3.04	0.71	-0.04	3.00	0.80	0.19
15	二つ以上資料を比べながら、ちがいにについて考えることができますか。	2.85	0.89	-0.10	2.75	1.14	0.15
24	社会科学の授業中に「なぜだろう？」と疑問に思うことがよくありますか。	3.19	1.03	-0.16	3.04	1.20	-0.37
4	社会科学の授業で学習したことは、将来、役に立つと思いますか。	2.81	1.06	-0.06	2.75	1.03	-0.37
3	社会科学の授業の内容はよくわかりますか。	3.42	0.78	-0.07	3.36	1.05	-0.49
9	調べた事を学級で発表するのは得意ですか。	2.23	1.11	-0.02	2.25	1.16	-0.57
14	社会科学の授業では、自分の考えを発表することができますか。	2.46	1.07	-0.07	2.39	1.23	-0.57

† p<.10 * p<.05 ** p<.01

＜ねりあい前＞

名前	ふりかえり
A	新しい戦い方や新しい政策や新しい文化を取り入れたから。
B	新しい文化や戦い、政策をして尊敬されるようになった。
C	強かったし、色々な方法を考えて戦ったと思う。鉄砲を3000丁もあるから、天下を取れたと思う。
D	(未記入)
E	桶狭間の戦いで全国に織田信長の名前が知られる。
F	様々な戦い方を考え作戦を成功させることができたから。
G	信長は、新しい戦い方、鉄砲を使ったり、三列で攻撃したから。
H	日本で一番最初に銃を手にして、新しい戦い方や、新しい武器などを取り入れてどんどん戦いに勝っていた。最初にキリスト教を支援してそのキリスト教を信じる人がとって増えたら、キリスト教を信じる人をメインにして軍を作っていた。キリスト教の人と仲良くなって色々な武器を取り入れていた。
I	鉄砲などの最新の技術を取り入れて、それを上手く使って戦った。(長篠の戦い)
J	連合軍をしたから。鉄砲隊を買って使っていた。新しい戦い方をしたから。
K	家来をかしく使って鉄砲を持たせて、どんな状況でも冷静に考えて、敵が多くても勝てたから。ほうびも多々みんなにさすげられた。
L	頭が良かった。強かった。自分が都合のいいことだけしていたから。
M	(未記入)
N	みんなに信用されていた。言うことをきかないやつを殺した。
O	人脈も厚かったため、対戦相手の弱点などを聞き出し、情報をくれた人にほうびなどをわたし、より人脈を厚くした。
P	(未記入)
Q	鉄砲があったから。農民に信頼されていたから。鉄砲を大量生産したから。
R	信長は頭が良くて、みんなに自分の力を認めるのが上手だったから。戦う前から作戦を練っていたから(他の人がやらなそうなこと・新しい戦い方)
S	何人もの敵を倒してきたから。武器に鉄砲を使っていたから。
T	鉄砲を使ったから
U	兵器を使ったから
V	強い大名(秀吉、家康)を味方につけ、土地を利用して戦ったから。



＜ねりあい後＞

名前	ふりかえり
A	信長はデメリットをメリットに変えたから統一することができた。なぜなら、「鉄砲は重いから不便」ではなく、三列でスムーズに攻撃していたり、鉄砲はお金がかかると、楽市楽座や南蛮貿易などでお金をたくさん集めて、たくさん鉄砲で戦いに勝った。
B	やっぱりまずは、鉄砲を買って使って人々に尊敬されていた事。他の大名ができていない事をしていることとすごいと思われていた。大量の鉄砲を買って使ったり、人々のことを考えて安心してた。この事で天下統一ができたのかと思った。
C	今みんな話していたからお金がいっぱいあって、そのお金で鉄砲を使って戦っていたから。あと、三列で鉄砲を使っていたからだと思う。あとやっぱり人間にはお金が必要だと僕は思う。
D	お金を集めて値段が高い鉄砲を使っていたから。
E	織田軍だけが鉄砲を使用し、みんなから信頼を得ていたから。
F	信長は、いろいろな都市や軍を攻め滅ぼしていたから、税金を集め、鉄砲も集まっていたので、部下の信頼もあつたからお金も鉄砲も集まったのだと思った。
G	重たくて不便な鉄砲を信長は、三列でスムーズに攻撃したから。お金を集めるのがうまくあったから。
H	信長は上手に外国人や人々の心をつかんで信頼されながら、税金を払わせ、信長はお金が大好きで色々な方法でお金を集めていたからとってすごい。
I	あらゆる方法で金を集め、その金で鉄砲を買った。鉄砲の不便なところを補うなどして上手に使ったから、天下統一できた。
J	信長は戦いのプロでもあったし、お金の集めのプロでもあったんじゃないのか。
K	鉄砲を支配していた。堺などに多く使わせて、3000丁もの鉄砲を用意し、税金も一緒に集めて人をつくって、人数を多くし、戦場でも鉄砲隊を3列でスムーズに使うことで敵を支配していた。
L	鉄砲を他の大名にわたさなかったから。
M	戦いのプロ。お金の集めのプロ。
N	お金で人を釣った。お金で武器を買って戦った。
O	信長は自分にしかできない事、または、利益があることを考えていたから天下統一できた。
P	税金を取らなかつたから。そして武士を鍛えていたから。仲間を信頼していた。農民は好きな仕事をしただけだった。お金で人集め。
Q	武力があったから。農民たちに優しいことをやり、信頼を勝ち取ってさらに鉄砲もあつたから。
R	鉄砲があつたから天下統一できた。お金を集めるのが上手。お金で人を釣る。
S	お金で人をつっていた。
T	お金で人をつ
U	信長はお金好きで、お金を持っている。
V	信長は常に新しいものを取り入れ自分しかできない(自分の支配下)ものを使って戦ったから。

【資料3】

信貴山縁起絵巻をよむ

—地域資源を活かした授業実践から—

中澤 哲也（平群町立平群北小学校）

【資料4】

2学期：総合学習との
合科的な授業の実践

I 目的と背景

小学校の授業において地域教材や、地域人材といった身の回りの地域資源を活用することの有用性を、本実践をもとに整理しながら述べていく。

信貴山縁起絵巻とは本校の南に位置する信貴山朝護孫子寺に保管されている絵巻物である。約800年前に作成された日本四大絵巻の中のひとつであり、国宝にも認定されている。当時の平安時代の人々の暮らしの様子、人物の表情や服装、自然の描写などが鮮明に描かれており、現代のアニメや漫画の原点とも言われている。信貴山は過去に4度の火災に見舞われているが、現代まで大切に守られ、受け継がれてきている。しかし、その魅力や価値、さらにはその絵巻物自体が地域の人々にはあまり認知されていないという現状もある。ESDの目標である地域の文化財の保護の観点から、小学校6年生総合的な学習の時間を利用し、児童が地域の文化財の魅力を理解し、後世に伝えていこうとする態度を育むために実践を行った。また、本実践をさらに効果的に行うために、地域人材の活用にも取り組んだ。平群町教育委員会の学芸員の方、平群町観光ボランティアガイドの方々、平群町役場の観光産業課の方である。本発表では、上記の地域資源を活用したことによる効果を検討する。

II 方法

地域の文化財である信貴山縁起絵巻の魅力を見つけ、解説文を作成することを目標とした。絵巻に関する専門的な知識や情報を得るために、町教育委員会の学芸員や町の観光ボランティアガイドをゲストティーチャーとして招き、絵巻の概要や魅力について教えていただいた。また、児童が感じた絵巻の魅力や、絵巻に対する想いを伝えるために、町役場の観光産業課に協力をお願いし、平群町道の駅で発信する機会を提供していただいた。

III 実践による成果

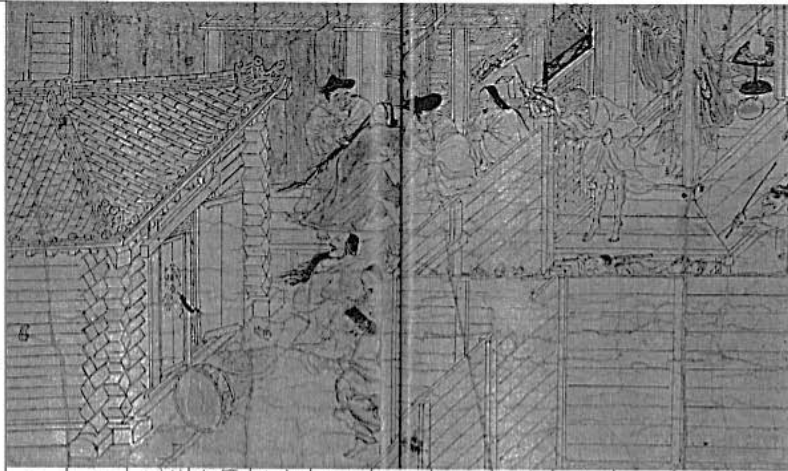
今回の実践による成果を次の二点で振り返る。

一つ目は地域資源の有用性についてである。児童がより専門的な知識を学ぶために、ゲストティーチャーの知識や情報は大変重要な資料であった。絵巻の概要だけでなく、絵巻の魅力、地域の文化財を守ることの大切さ、難しさなど、専門家ならではの見解を語っていただくことができた。

二つ目に児童の変容についてである。導入時にはほとんどの児童は信貴山縁起絵巻について知識がない状態であったが、実践を通していく中で、自分たちが知らなかった町の良さを改めて知ることができた。また、それを大切に保存、継承している学芸員やボランティアガイドとの交流によって、自分も同じ町民として絵巻を後世に伝えていきたいという責任感が育まれたと考えられる。

信貴山縁起絵巻を読む

この絵は、「信貴山縁起絵巻」飛倉の巻の一場面。信貴山縁起絵巻とは、平群町の信貴山朝護孫子寺に約八百年の間、大切に伝えられてきた絵巻物の事だ。



国宝であり、日本三大絵巻の一つである。

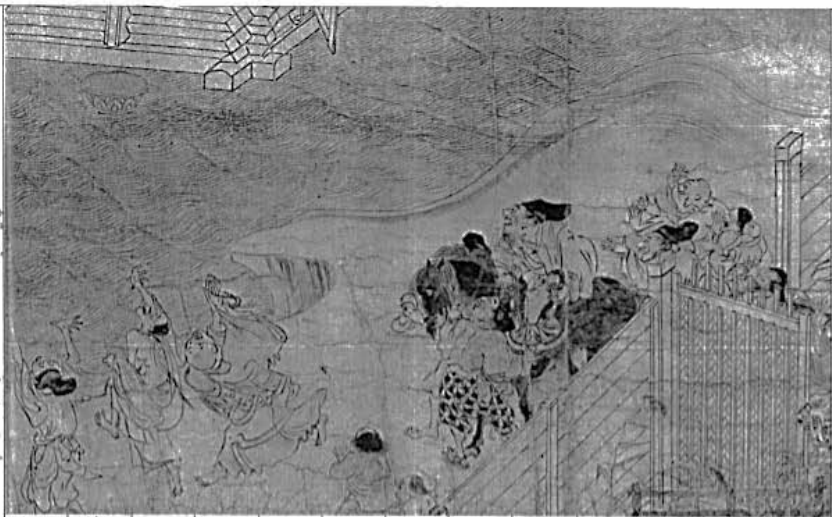
絵をくわしく見てみよう。この場面には、蔵から黄金のはちがとびだしている様子が描かれている。それぞれの表情に注目してみよう。もちろん、ごくおどろいている人もいるが、笑っている人もいる。様々な表情を、単一本で書きあげたのは、実にすばらしい。家敷にも注目してみよう。かわらが地面におちていること、遠くからもおどろいた人が

来ていることから、それほど勢いよく大きな音をたててはちがとびだしたという事が分かる。部屋豪華な装飾なども細かく描きまわって、見事に「長者の部屋」を表現している。

この絵巻には、セリがなければ絵を見るだけで話分かる、分かりやすさがある。何百年も前にかかれたこの絵巻物を、次は私達が後世に語りつぎ、守っていく番である。

信貴山縁起絵巻を読む

この絵は、「信貴山縁起絵巻」飛倉の巻の一場面。信貴山縁起とは平群町の信貴山朝護孫子寺に約八百年の間、大切に伝えられてきた絵巻物である。



もう少し絵をくわしく見てみよう。この場面から、倉が命運というおぼろさの法カをも、た鉢に飛ばされていることが分かる。その下で長者たちがあせりながら追いかけている様子も描かれている。長者さんやおぼろさんなどが、はだしやわらじをかたただけはいて、追いかけている。その様子から、すくあわてていることが分かる。長者たちは、目を見開き、口を大きく開けている。この様子から、すく敬んでいることが分かる。このように、服さつや表情など、とても細かく

かいているところが実に素晴らしい。信貴山縁起絵巻のことを知れば、知るほど、おもしろいや魅力が分かってくる。私はこの絵巻物を、日本はもちろん世界中にも広げていきたい。この絵は、800年も大切に保存されてきた。だから次は私たちが受け継いでいく番だと思ふ。